

まえがき

今、我が国では、高度経済成長時代以降に建設されたインフラの老朽化が進行する一方で、厳しい財政制約などの困難に直面している。このような背景の中、社会資本整備審議会道路分科会建議中間とりまとめ（H24.6）では、ライフサイクルコスト最小化と道路の品質確保の観点から、「（道路構造物・付属施設について）予防保全の概念を導入し、高い耐久性が期待されるコンクリート舗装の積極的活用など、ライフサイクルコスト最小化の視点をより重視した総合的なコスト縮減を推進すべき。」と提案された。

一方、我が国におけるコンクリート舗装は、第一次高度経済成長期の1950年代から1960年頃では、舗装された道路全体に占める割合が30%程度であった。しかし、コンクリート舗装の採用割合が年々減少し、近年では5%程度で横ばいの状態である。

そもそも、近年の我が国においてコンクリート舗装の採用が敬遠されてきた理由としては、アスファルト舗装と比較して初期コストが高い、破損した場合の補修が困難、路面下の占用工事が困難、乗り心地や騒音に問題がある等が考えられるが、適所での活用や適切な維持管理により、その長所が十分に発揮されていることも実証されている。

本資料は、道路管理者によるコンクリート舗装の適切な維持管理の一助とすべく、維持管理の基礎である点検において着目すべき点及びその代表的な変状・破損について、写真・イメージ図により、コンクリート舗装管理の経験が少ない道路管理者にも分かりやすく取りまとめたものである。

なお、本資料は、関東地方整備局、北陸地方整備局、中部地方整備局、中国地方整備局及び国土技術政策総合研究所、土木研究所で構成する検討会において取りまとめたものである。